

内閣府
特命担当大臣表彰
奨励賞

厚生労働省推薦

株式会社システムギアビジョン

(兵庫県宝塚市)

【概要】

➤ 株式会社システムギアビジョンでは、主に見えにくい人、見えない人、聞こえにくい人、聞こえない人のための支援用具・機器の企画、開発、販売、保守及び輸出入を行っている。

また、機器の企画、開発、販売、保守、輸出入に留まらず、視覚障害者団体の活動支援や、眼科への情報提供、販売店や支援団体とのネットワーク構築などにより、ロービジョンケアの普及や視覚障害者の就労支援など、視覚障害者のQOL(Quality of Life: 生活の質)向上に貢献している。

【功績・功労】

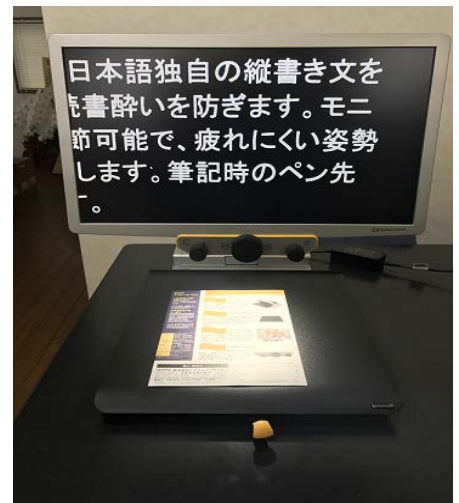
➤ 視覚障害者用読書器の企画・開発

①日本人に合った読書器の企画・開発

同社は1995年から拡大読書器の輸入・販売を始めたが、当時、外国製の機器は日本人には使いづらく、また、国産モデルは高価格であったため、日本人が使いやすい、低価格化な国産モデルを開発し、より多くの方に普及させたいという強い思いから、1997年に同社初の自社企画据置型拡大読書器を開発した。

②読書器の低価格化

さらに、当時価格が30万円近くしていた据置型の読書器を視覚障害者の日常生活用具給付限度額である198,000円で販売開始するなど、読書器の低価格化に貢献した。



視覚障害者用拡大読書器



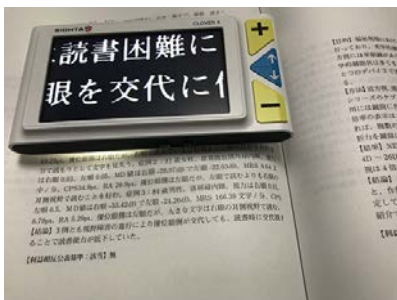
上の拡大読書器を折り畳んだ状態

③ユーザーの声を活かした製品開発

その後も、多くの視覚障害者の意見を取り入れ、文字を筆記する際の手などの影を軽減する機能を搭載した。また、子供を視覚支援学校ではなく、普通学校に進学させたいという親の相談を受け、読書器を使用して黒板の文字を確認できるよう改良した。そして、外出先でも読書器で読み書きしたいとの要望を受け、国内初の携帯型拡大読書器を開発・発売。外出先で遠方を確認したいという希望を受け、世界初の遠近両用オートフォーカスカメラを搭載した携帯型拡大読書器を販売開始するなど、同社は常にユーザーの声を活かした製品開発を続けてきた。

④世界各国の優れた製品の日本への導入

また同社では、毎年世界各国の視覚支援機器の展示会に参加し、世界中の優れた製品を日本に導入している。外国で開発された製品は、そのまま日本では使用できないことも多く、機能評価や品質保証を同社で行い、日本人に使いやすいようにアレンジして流通させている。



電子ルーペ



読み上げ読書器
※内蔵カメラで読み取った文字を読み上げる



AI視覚支援デバイス(オーカムマイアイ)
※内蔵カメラに映った文字を読み上げる。
顔の認識や紙幣の認識等も可能。

➤ 視覚支援機器の普及活動

当初は視覚支援機器を販売する視覚障害者団体はごく一部で、運営が厳しいところも少なくなかったが、同社製品だけでなく、広く視覚支援機器の販売を行うことを提案し、視覚障害者への情報提供に繋げ、団体の運営資金を確保を支援してきた。

また、大学病院を中心に、全国の眼科に対して、疾患により視力が低下した患者に機器の紹介を提案するだけでなく、支援機器の勉強会やカンファレンスでの機器説明を行ってきた。

そして、同社では、多くの眼鏡店に対して、眼鏡で矯正しても視力が出ない客への視覚支援機器の情報提供を啓蒙してきた。視覚障害者支援団体についても、視覚支援機器、地域の販売店等の情報を提供し、地域全体で視覚障害者をサポートできるネットワークの構築に尽力してきた。